

7. 実践臨床心理学専攻

(1) 実践臨床心理学専攻の教育目的と特徴	7-2
(2) 「教育の水準」の分析	7-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	7-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	7-10
【参考】データ分析集 指標一覧	7-12

(1) 実践臨床心理学専攻の教育目的と特徴

1. 本専攻では、現代社会における心の問題の複雑化・多様化に対応できるような、高度の臨床心理学の知識と技術を持った、ハイクオリティの臨床心理専門職業人の養成を行うことを目的としている。
2. 本専攻の教育の特徴は、臨床現場での実習を豊富に設定し、実習中心のカリキュラムとしたところにある。実務家教員がそれぞれの専門とする臨床領域(教育、福祉、医療・保健)を担当し、幅広い臨床実践能力の獲得をめざしている。また臨床実践力を高めるために事例研究論文の作成を課している。
3. 臨床心理学における高度専門職業人の養成のために、理論学習が中心となる講義・演習と経験学習が中心となる実習のバランスを考慮した科目を設定している。特に学内附属施設および心理臨床の3大領域である医療・教育・福祉領域における学外施設での実習など実践的な教育を展開している。また、財団法人日本臨床心理士資格認定協会による「認定臨床心理士」資格試験において、受験資格となると共に「論文試験」の免除が得られるカリキュラムとなっている。
4. 臨床心理学専門職大学院である本専攻をはじめ、医学系学府医療経営・管理学専攻、経済学府産業マネジメント専攻、法科大学院の法務学府実務法学専攻という、多様性のある九州大学の専門職大学院の特徴を生かし、「専門職大学院コンソーシアム」を立ち上げ、相互履修制度、市民講座であるレクチャーシリーズの共催等を行うなど、重層的なネットワークの構築と社会貢献に取り組んでいる。
5. 平成18年11月、昨今の多種多様な社会の臨床心理分野に関するニーズに応え、本学で集積してきた「臨床心理学の知見と専門性」を社会、地域住民に貢献することを目的に「NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室」を設立した。学生の実習教育の場として連携を図り、研修会の実施など社会貢献に取り組んでいる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針
(別添資料 7307-i1-1_実践臨床心理学専攻 3 ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針
((再掲) 別添資料 7307-i1-1_実践臨床心理学専攻 3 ポリシー)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
(別添資料 7307-i3-1_平成25年度カリキュラムマップ)
(別添資料 7307-i3-2_平成30年度ナンバリングコード)
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
(別添資料 7307-i3-3_大学院人間環境学府及び大学院人間環境学研究院評価委員会規程)
(別添資料 7307-i3-4_人間環境学府規則)
(別添資料 7307-i3-5_人間環境学府実践臨床心理学専攻教育課程連携協議会内規)
(別添資料 7307-i3-6_令和元年度認証評価報告書(抜粋))
(別添資料 7307-i3-7_大学院基幹教育科目一覧)
- ・ 研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む。)指導体制が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7307-i3-4_人間環境学府規則)

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本専攻の教育課程は、実務家としての理論的・実践的知識を幅広く修得させるために系統的に編成されている。授業科目は大きく必修・選択に分けられ、必修科目は教育課程の中で重視される演習・実習科目で構成している。選択科目を加えた包括的なカリキュラムは、即戦力となる臨床心理技能の修得を目的としている。[3.1]
- 臨床心理地域援助学実習では、医療・保健、福祉、教育の3領域の実習先に、実習担当教員が学期に2回ずつ巡回指導を行っており、現場のニーズに応じられる実習を含めた学位プログラムを設定している。[3.2]
- 本専攻は、医学系学府医療経営・管理学専攻、経済学府産業マネジメント専攻、法科大学院の法務学府実務法学専攻と平成18年に「専門職大学院コンソーシアム」を立ち上げ、相互履修制度を整えており、学際的な知識が得られる制度を編成している。[3.3]
(別添資料 7307-i3-8_専門職大学院コンソーシアム相互履修(抜粋))
- 財団法人臨床心理士認定協会による「臨床心理士」の受験資格に加え、国家資格として新設された公認心理師の受験資格を得るため、「臨床心理面接学実習Ⅰ(心理実践実習)」、「臨床心理地域援助学実習Ⅰ(心理実践実習)」等の学内実習・学外実習に関する実習内容と時間の見直しを行い、科目を平成31年度に再構成した。[3.5]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 7307-i4-1_授業日程(学部・大学院))
(別添資料 7307-i4-2_平成31年度前学期日程表)
(別添資料 7307-i4-3_平成31年度後学期日程表)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 7307-i4-4_シラバス_実践臨床心理学専攻)
(別添資料 7307-i4-5_学生便覧)
- ・ 専門職大学院に係るCAP制に関する規定
((再掲) 別添資料 7307-i3-4_人間環境学府規則)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

(別添資料 なし)

理由：該当なしのため

- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料

(別添資料 なし)

理由：該当なしのため

- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学内実習施設である総合臨床心理センターに「心理教育相談部門」「子ども発達相談部門」「生涯発達支援部門」の3部門を置き、発達障害、知的障害、運動障害等、不登校、いじめ、非行、習癖・無気力、うつ状態等のクライアントが来談している。そのため本専攻の学生が、様々な問題、幅広い対象年齢など、多様なケースについて実習を行うことのできる実習体制を整えている。[4.1]
- 学外実習として、医療領域・教育領域・福祉領域の3大領域での学外実習を領域毎に90時間、計270時間行っている。事前指導（オリエンテーション）・中間シェアリングを行い、実習終了後は、実習終了報告会を行い、きめの細かい指導を行っている。[4.2]
- 学内実習施設である総合臨床心理センターでは、学生の実習活動の記録のため、映像記録を撮影できるシステムを導入し、授業内での実習活動の振り返り等に活用している。また、実習活動の文章記録においては学外と遮断されたネットワークを設定し、記録の管理の一元化を図っている。[4.3]
- 「九州大学大学院人間環境学府専門職学位課程(実践臨床心理学)指導内規」を定め、1名の主指導教員と1名の副指導教員をおき、臨床実習の指導及び事例研究論文の作成指導にあたっている。[4.4]
- 本専攻の全学生が集まったの論文指導演習の機会を毎週持つとともに、各指導教員が主催する研究会での論文指導、および全体での中間発表会・最終論文発表会を行っている。また、研究能力の資質向上のために博士後期課程の特選題目論文発表会に参加する体制をとっている。大学院生へのキャリア指導として、毎年4月に進路オリエンテーションを行っている。[4.5]
- 講義科目・演習科目で学んだことを総合臨床心理センターの学内実習及び学外実習で活かし、心理実習で学んだことを演習科目で発表し指導を受けられる体制を整え、理論と実務の架橋を図っている。[4.6]
- 修了生の「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会資格試験」の合格率は平成28年度修了生が100%、平成29年度修了生が87%となっており、全国平均(平

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

成 28 年度 65.5%、平成 29 年度 63.6%) に比べ高い合格率を示し、高度専門職業人としてふさわしい学力や能力を身に付けて修了している。[4.7]

(別添資料 7307-i4-6_財団法人臨床心理士認定協会「臨床心理士」合格率)

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7307-i5-1_履修指導の実施状況_実践臨床心理学専攻)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料
(別添資料 7307-i5-2_学習相談の実施状況_実践臨床心理学専攻)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料
(別添資料 7307-i5-3_社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組_実践臨床心理学専攻)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料
(別添資料 7307-i5-4_履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援_実践臨床心理学専攻)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 学習相談、指導・助言体制を有効に機能させるため、複数の院生室を整備し異なる指導教員の学生が共同で使用するよう配置している。院生室は、臨床活動や研究について日常的に情報交換や討論を行う場として機能している。[5.1]
- 年度当初において「進路オリエンテーション」を実施している。基本的内容は、入学時から 2 年間の「進路・就職の時間的展望」、「就職情報の入手の仕方」、「本専攻への過去の求職状況」、「過年度の進路希望動向」「過年度の進路先」などから構成されている。このオリエンテーション資料の説明に基づき、指導教員が個別的相談・助言を行うなど、詳細かつ丁寧な情報提供を行っている。[5.3]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（(再掲)別添資料 7307-i3-4_人間環境学府規則)
- ・ 成績評価の分布表
(別添資料 7307-i6-1_成績評価結果(2017・2018・2019 年度開講科目))

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料
(別添資料 7307-i6-2_大学院人間環境学府の成績評価に係る申合せ)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 成績評価は、九州大学大学院人間環境学府規則の第8条で定められた4段階からなり、A(優) B(良) C(可)を合格、D(不可)を授業目的により要求される水準に達していないものとして、不合格としている。学生に対しては、科目名・授業計画・成績評価の方法等を学生便覧やWebシラバスシステムに記載し公開するとともに、オリエンテーション及び授業において周知徹底を図っている。[6.1]

<必須記載項目7 卒業(修了)判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定
(別添資料 7307-i7-1_九州大学大学院人間環境学府専門職学位課程(実践臨床心理学専攻)学生の指導内規)
(別添資料 7307-i7-2_九州大学学位規則)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料
(別添資料 7307-i7-3_九州大学大学院通則)
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
(別添資料 7307-i7-4_大学院人間環境学府専門職学位課程(実践臨床心理学専攻)学生の指導内規)
((再掲) 別添資料 7307-i7-2_九州大学学位規則)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本専攻の修了要件は、九州大学大学院人間環境学府規則の第17条において2年以上在学し、46単位以上を修得することと定められている。修了にあたっては、実践臨床心理学専攻を担当する教員で構成する会議で審議し、人間環境学府教授会において総合的に判定をしている。[7.1]

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料
((再掲) 別添資料 7307-i1-1_実践臨床心理学専攻 3 ポリシー)
- ・ 入学定員充足率
(別添資料 7307-i8-1_入学定員充足率_実践臨床心理学専攻)
- ・ 指標番号 1～3、6～7 (データ分析集)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 入学選抜に当たっては、心理系学部卒業生に限定せず、一定の臨床心理学的実務経験を持つ社会人や、一定の心理学的素養を持つ他学部の卒業生も受け入れている。また、アジアをはじめ広く各国からの留学生を積極的に受け入れるという本専攻のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な経験を有するものを入学させるよう努めている。社会人や留学生に対しては、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜による入試を行っている。[8.1]
- 平成 29 年度から過去 3 年間続けて在籍者数が 110%を超えて在籍したことはなく、収容定員に比べて適正な在籍者数となっている。[8.2]

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室と連携し、同相談室で実施されている臨床心理面接に学生が陪席者として参加し現場での臨床実践について学習している。[B.1] (別添資料 7307-iB-1_特定非営利団体九州大学こころとそだちの相談室研修会資料)
- NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室と連携し、市民を対象とした臨床心理サービス事業、研究事業を実施している。[B.1] ((再掲) 別添資料 7307-iB-1_特定非営利団体九州大学こころとそだちの相談室研修会資料)

<選択記載項目 D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブ

九州大学実践臨床心理学専攻 教育活動の状況

サイト等の該当箇所

((再掲) 別添資料 7307-iB-1_特定非営利団体九州大学こころとそだちの相談室研修会資料)

- ・ 指標番号 2、4 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本専攻は、NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室と連携を行いながら、臨床心理士等対人援助職の専門職を対象とした研修事業、研究事業を実施している。
[D.1] ((再掲) 別添資料 7307-iB-1_特定非営利団体九州大学こころとそだちの相談室研修会資料)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率
(別添資料 7307-ii1-1_標準修業年限内卒業（修了）率_実践臨床心理学専攻)
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率
(別添資料 7307-ii1-2_標準修業年限 1.5 年内卒業（修了）率_実践臨床心理学専攻)
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了生の「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会資格試験」の合格率は平成 28 年度修了生が 100%、平成 29 年度修了生が 87%、平成 30 年修了生 87%、令和元年度 92%となっており、全国平均（平成 28 年度 62.9%、平成 29 年度 65.5%、平成 30 年度 63.6%、令和元年度 62.7%）に比べ高い合格率を示し、高度専門職業人としてふさわしい学力や能力を身に付けて修了している。[1.2]（（再掲） [4.7] ）
(（再掲）別添資料 7307-i4-6_財団法人臨床心理士認定協会「臨床心理士」合格率)

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了後の就職先は臨床心理専門職であり、領域も医療、福祉、教育、司法・矯正等多領域に渡っている。本専攻が目的とする「種々の臨床心理現場に即応できる臨床心理分野の高度専門職業人の養成」を達成している。[2.1]
(別添資料 7307-ii2-1_修了後の就職・進学・領域別就職)

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 7307-iiA-1_実践臨床心理学専攻修了時のディベロップメント調査結果_平成 28～30 年度)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 専攻設置当初から、学生へのディベロップメント調査を継続的に行っており、第3期中期目標期間においても、カリキュラムと実習についての満足度は高く、臨床心理の専門的技術である心理検査法や心理療法についての修了時の理解度、実践度の評価はいずれも高くなっている。[A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。